

平成30年度 専門講座開催

平成30年7月22日（日）に、クリエート浜松で、試行として、日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム専門講座を実施しました。

10:00～12:00 「子どもの読みの障害（発達性ディスレクシア）—音韻の問題に焦点をあてて」上智大学大学院言語聴覚研究コース 原 恵子 先生

導入部では、原先生がご家族とアメリカで生活していた時に発達性ディスレクシアについて学ぶ機会があり、日本帰国後に、研究を始められたことを紹介していただき、その後、発達性ディスレクシアの定義や考え方について、ご教示いただきました。「読み」について考える上で、まずは日本語話者として十分な能力を備えているという「音声言語の完成」が重要となり、「読み」という脳の処理は、文字と音の間に決められた「恣意的な関係＝偶然決まった規則」を理解し、文字や単語を音声に変換することと教えていただきました。ディスレクシアの子どもは、この「デコーディング」の作業やことばを「音の粒々」に分けること・音韻認識に弱さがあるそうです。また、「読み」の問題を考える際、「デコーディング」と「読解」は分けて考える必要があります。デコーディングが自動化して流暢に単語に適したイントネーションで読む事ができるようになることで、意味理解や読解にエネルギーを注ぐことができるそうです。日本語は、前述の「音の粒々」に気づく際に、音節だけでなくモーラがわかることで、ひらがな学習がスムーズに進むことを教えていただきました。さらに、語彙が豊かであれば、単語が読みやすくなり、読解を支えることにな



なるが、ディスレクシアがあると、読む事が難しいことで、読みたくなり、語彙や知識が増えず、学習全般に影響し、さらに「読解」に悪影響を及ぼすという二次的な問題が生じやすいそうです。発達性ディスレクシアを考える際、「子どもは言語発達途上にあり、常に学習して新しい語を増やしている」ことを考えなければならず、読み書きの基盤に問題を持って発達していくことになるため新しい語彙や

親密度の低い語彙を獲得していくことに困難さを生じることになりやすく、健常な言語発達を遂げ後天的な失読・失書を生じた人とは、根本的な問題が異なることを、教えていただきました。また、「書き」だけの障害は少なく、「読み」に困難さがあれば、ほとんどが「書き」にも困難さが生じるそうです。疑似体験の時間や症例の音読音声や書字例を提示していただいたことで、ディスレクシアについて、より理解を深めることができました。

指導方法についても、丁寧にご教示いただきました。低学年は、デコーディングを直接的に指導していくことが大切で、単文字も読めない子どもには、「子どもが考えたキーワード」に文字と絵を添えて音と結びつけていくこと・その際に絵を描いたり色を塗ってい

くという多感覚を活用する大切さについてもお話いただきました。また、音の粒を探す手がかりとして、母音を手がかりにして、まずは直音の練習を多く行っていく中で、「一粒分の感覚」を養っていくことが必要だそうです。「一粒分の感覚」がわかることで、促音との違いが自動的に理解できるようになる前提となっていくそうです。高学年は、読解に比重を置き、苦手さに対して補助手段も活用していくこと・漢字指導については、つねに語彙指導の観点を持ち、文例とセットで学習していく重要性を教えてくださいました。実際の読み書きの前に、幼児期には、しりとり・語頭音からの語想起遊び、反対語作り・「グリコ・パイナップル・チョコレート」のようなモーラ分解を取り入れた遊びなどの「言葉遊び」を経験することも、大切なことだそうです。

原先生は、上記のような理論や指導方法のことだけでなく、「ディスレクシアの方の思いや苦悩を理解して、支援をしていくことの大切さ」を当事者の書籍（「読めなくても書けなくても勉強したい」（ぶどう社））を紹介しながら、教えてくださいました。

以下に、アンケートで寄せられた感想を記載します。講義の内容を知る手がかりとして下さい。

アンケートの感想

- ・抽象的なことを具体的・論理的に説明していただいたので、とても理解しやすかった。先生の説明が、すごくわかりやすかった。
- ・ディスレクシアの考え方が、基礎から応用まで学ぶことができ、勉強になった。
- ・症例の音読の様子を実際に聞くことができた。実例があって、大変わかりやすかった。
- ・話しことばと文字ことばをつなぐことが、音韻認識には大切なことを改めて知り、就学前に取り組む事や就学後の課題がわかった。
- ・音韻認識の重要性は日々の臨床において実感しており、興味がある分野だったので、勉強になった。
- ・「音のつぶつぶ」を意識する大切さが、わかりました。
- ・就学前に出来ること（ことば遊びの内容）を知ることができて、良かった。
- ・LDのお子さんへの対応は、地域でも実施したいところですが、具体的な対応方法・検査の実施・指導対象者の選定等課題があり、なかなか進まないのが現状です。今回の講義をきっかけに、自分でできることを、やっていきたい。
- ・理論を伝えるだけでなく、先生の熱意・思いが伝わる研修で、引き込まれた。
- ・自分の臨床で気づいていたこと・疑問に思っていたことを言語化していただけた。
- ・2時間ではなく、1日開催で実施してほしい内容だった。
- ・現場でどのような訓練をしていけばよいか、もう少し具体的に教えていただきたかった。評価や支援方法について、もう少し聞いてみたかった。
- ・講師がSTなので臨床の視点や困っている事が自分達と共通点があり、理解しやすかった。
- ・小児分野の研修会は県内では少ないので、参加しやすく勉強になった。
- ・成人の患者様にも応用していきたい。

- ・専門性の高い講義を県内できけるのは、ありがたい。
- ・県内で専門講座が実施され、参加しやすかった。

なお、今回の専門講座は「試行」で実施しており、今後県士会で定期開催していくかは、検討が必要となります。参加者の様子は、下記の通りです。

- ・参加者総数 30名 アンケート回収数 30名 回収率 100%
- ・県士会員 26名 県内非会員 2名 県外非会員 2名
- ・専門講座への参加回数 初めて20名 2回 4名 3回目3名 5回目1名
数回 1名 未記入1名

※県内開催ということで、参加しやすかったのか、3分の2の参加者が、今回初めて専門講座を受講した方でした。

- ・「今後、県士会で専門講座を実施したら、参加しますか？」という質問には、是非参加したい 16名 興味のあるテーマなら参加したい 13名
自宅から近い地域開催なら参加したい 1名

※「是非参加したい」が半数を超えていますが、一方で「興味のあるテーマなら参加したい」も13名と半数近くを占めています。生涯学習プログラム修了を目的とする方と自己研鑽のために自分が興味のあるテーマなら参加したいと考える方がいらっしゃるようです。

平成30年度 基礎講座（2回目）開催

平成30年7月22日（日）に、クリエート浜松で、日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム基礎講座（今年度2回目）を実施しました。

13:35～14:50 「研究法序論」

講師：聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 中村哲也 さん

参加者 13名

15:00～16:15 「言語聴覚療法の動向」

講師：はいなん吉田病院 川村ひとみ さん

参加者 15名

昨年7月静岡開催の基礎講座と同じ講義内容なので、前回よりも参加人数は少なくなりましたが、中村先生・川村先生には、丁寧で、わかりやすくお話ししていただきました。参加者の皆さんにも、熱心に受講していただきました。

